

## 第五節 和泊町の発足

郡内の各町村は終戦後村から町に昇格したところが多い。そこで資料もよく保存されており、すでに発刊された町誌を見ると、昇格に伴う諸種の事情が克明に記録されており、その町の独自性がよく表れている。

ところが、和泊町においては、昇格に伴う公的な記録はほとんど見当たらない。それは主として次の事情によるものである。

- 1 村から町へ昇格したが、大東亜戦争開戦直前であり、戦争の進展と共に軍事機密の名の下に諸統計が行われなかったか、あるいは行われても公表しなかったため記録として残らなかった。
- 2 空襲に伴う疎開によって資料が汚損するか、戦災によって焼失して現存しない。

和泊町においては、昭和五十五年が町制施行四十周年

に当たるので、五月一日午前九時から町民体育館において町制施行四十周年記念式典を挙行した。そのとき、武田町長は式辞の中の一節で、次のように述べている。

「さて、本町が町制を施行したのは昭和十六年五月一日で、大島郡では名瀬と古仁屋だけに町制がしかれているときでありました。当時わが和泊村は、東京在住の予備役陸軍主計少佐山下兼道氏を村長に迎えているいろいろ改革がなされていた時でしたが、純農村である和泊村に町制を施行することについては、時期尚早との批判もありましたが、山下村長は英断をもってこれを施行し、自ら初代町長となったのであります。この刺激を受けて同じ年の九月に喜界町、十二月に亀津町が誕生致しました。それから、二代東仲一氏、三代重村中久氏を経て昭和三十三年二月に四代目の町長として私がバトンをつぎ今日に至っております。

沖永良部は民情豊かな島であると自他共に許しております。また、わが和泊町の為政者は常に和の精神をモットーとして町民を指導してきました。私も町長就任に当たり、伝統ある歴史の流れの中にあつて先輩たちの意志を継ぎ、和泊の名にふさわしく和を基調として町政をす

めたいと決意致しました。そして今日まで六期二十二年一貫して考えてきたことは、

- 1 町民を離島の苦しみから解放したい。
  - 2 働きがいのある農業の町を作りたい。
  - 3 弱い者のための施設をつくり福祉の心を育てたい。
  - 4 教育の振興と文化の昂揚をはかり、健全な町民の心と身体を育てたい。
- このことよって町制移行へのいきさつが推察でき、それ以来歴代の町長の施政に対する根本理念がはっきりと読みとれるのである。

本町は農業が基幹産業であるから第一次産業の割合が高い反面、大島紬など第二次産業の割合が低いのが他の奄美群島市町村と異なる点である。次に町制施行一年前すなわち昭和十五年十月一日実施の国勢調査による当時の人口は次のとおりとなっている。

町制施行以後の歴代町長

代	氏名	就任年月日	退職年月日
初代	山下 兼道	昭 16. 5. 1	昭 18. 6. 10
2	東 伸一	〃 18. 10. 9	〃 21. 6. 22
	〃	〃 21. 7. 1	〃 23. 9. 30
	〃	〃 23. 10. 1	〃 27. 12. 6
	〃	〃 27. 12. 7	〃 28. 12. 18
3	重村 中久	〃 29. 2. 20	〃 33. 2. 19
4	武田恵喜光	〃 33. 2. 20	〃 37. 2. 19
	〃	〃 37. 2. 20	〃 41. 2. 19
	〃	〃 41. 2. 20	〃 45. 2. 19
	〃	〃 45. 2. 20	〃 49. 2. 19
	〃	〃 49. 2. 20	〃 53. 2. 19
	〃	〃 53. 2. 20	〃 57. 2. 19
	〃	〃 57. 2. 20	現 在

和泊村人口

年度		昭 15 年
種別		国 調
総世帯数		2,450
総人口		11,642
男女別	男	5,383
	女	6,259